

平成 28 年 11 月 22 日

保護者の皆様へ

2 年生人権学習（講演会）のお知らせ

京都市立太秦中学校

校長 日下部 和宏

冷気日ごとに加わる候となりました。皆様には、ますますご健勝のことと存じます。

さて、12 月の人権月間を控え、本校では差別のない社会を目指し、「生き方に響く」人権学習を行うべく計画を進めているところです。

その一環としまして、このたび 2 年生で下記の講演会を計画いたしました。

ご多忙とは存じますが、何卒ご参観いただきたくご案内申し上げます。

記

2 年生人権学習（講演会）

日時：平成 28 年 12 月 2 日（金） 3・4 校時（10：45 ～ 12：35）

会場：京都市立太秦中学校体育館

講師：リオパラリンピックアーチェリー日本代表（7 位入賞）

上山 友裕氏

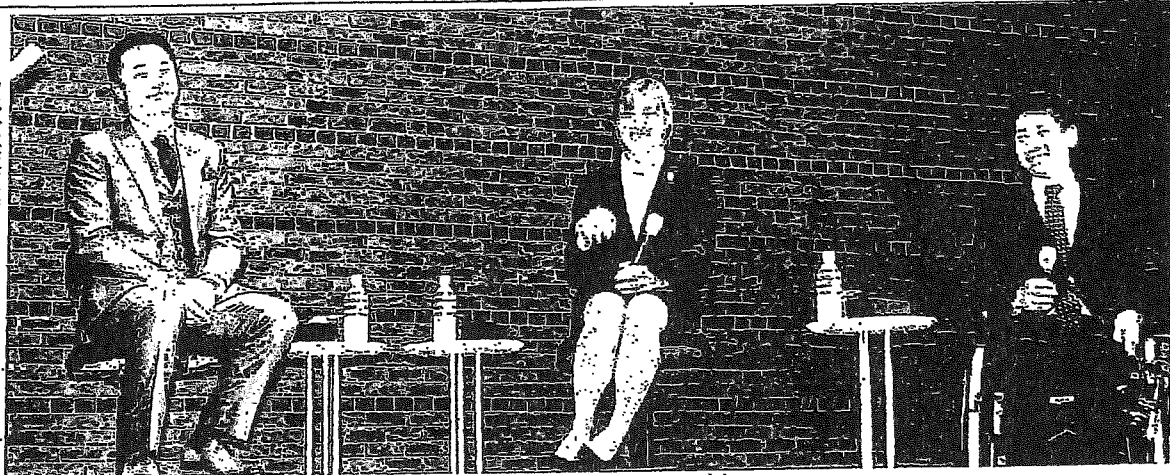
※ 5 年前に原因不明の脚の病気になり、パラリンピックに転向。

リオパラリンピックでは 7 位入賞を果たし、4 年後の東京パラリンピックでは金メダルを目指して奮闘中。

裏面に平成 28 年 11 月 17 日（木）京都新聞の記事

内容：パラリンピック出場を目指した自身の生き方と、将来に向けて目指すこと

以上



同志社校友会主催のトークショーで笑顔を見せる(右から)上山、伊勢田の両選手と宮本氏

五輪・パラ経験3人、同大で講演

同大出身のオリンピックと、脚の病気になるパラに転向した上野は「パラリンピック選手と対戦したら相手の応援で客席が揺れた。次の東京は観客も味方になる。僕の応援で満員になった。2004年アテネ、08年北京の両五輪で野球の日本代表主将を務めた評論家の宮本慎也氏と、リオデジャネイロ五輪セーリング代表の伊勢田愛(福井県体協)、リオパラリンピックのアーチェリー7位入賞した上山友裕(三)

リオ、応援で客席揺れた 「東京後」野球存続訴えを

伊勢田・上山 4年後へ向上心高く

菱電機)の両選手が、2020年東京五輪などに向けた思いを語り合った。伊勢田と上山は同学年の29歳。ともにリオが初の五輪、パラだった。RSSX級(ウィンドサーフィン)で20位に終わった高島市出身の伊勢田は「レース当日まで緊張はなかったが、スタートすると体も頭も動かなかった。これがオリンピックなのか、と思った」と述懐。5年前に原因不明の練習で臨むため、「チームと

の2人は4年後に向けた決意を披露。伊勢田は「まだやりの五輪では種目からなくなってきた感じはない。世界選手権などでメダルを懸けた決勝レースに普通に出来るレベルにまで自分を持っていた」と、上山は「目標は金メダル。健常者の大会に出て、勝てるようになれば東京でも上位に入れる」と向上心を抱く。トークショーは同志社校友会が主催した。

して戦うことが難しい。野球に対する周囲の期待が高いわりに準備はすぐ大変」。一方、自国開催五輪により「そこを目指しながら野球をするプロ選手も多いはず」と意欲の高まりを指摘した。同志社スポーツユニオンによると、同大は1932年のロス五輪以降、日本が参加したすべての五輪で代表選手を輩出し、リオ大会で延べ67人(パラ含む)になったという。会場に集まった600人超の「同志社人」を前に、現役

(国員志)